

**ダイキン工業株式会社 2017年3月期第2四半期決算  
アナリスト・投資家様向け説明会 質疑応答  
(2016年11月9日、東京)**

**Q：空調事業の営業利益率の年間計画を期初（5月公表）から上方修正しているが、主にとどの地域での利益率改善が貢献するのか。**

A：日本・アジア・欧州の利益率が改善する見込み。

**Q：現時点のグローバル各地域の流通在庫の水準は。**

A：空調事業は、いずれの地域も販売が好調であったことから、流通在庫が過剰になっているという認識はない。特にアジア地域では、需要に対して生産が逼迫している状況が長らく続いている。現在、当社は、現地既存工場の生産能力増強（タイ・インド）や、成長著しいベトナムでの新たな生産拠点の設立準備を進めており、地域最寄化での生産体制の強化を急いでいる。

**Q：米国新工場の稼働により、コストメリットはどの程度出ると考えているか（グッドマン社の在庫保有日数の短縮など）。**

A：数値目標を具体的に示すことは控えさせていただいたが、当社工場の中でも最新鋭の生産技術を生かした効率改善の取り組みを推進し、生産能力と生産性を大きく向上させる。生産者在庫を圧縮し、需要に応じて顧客にタイムリーに商品供給できるような生産体制に転換していく。

**Q：マレーシアにアプライドの新工場を設立する背景について。今後のアジアのアプライド市場のポテンシャルをどのように見ているか。**

A：現在、アジアでは、大型空調機の需要が急拡大しており、アプライド事業は非常に成長が期待できる分野。マレーシアには、当社の業務用パッケージエアコンの生産拠点であるダイキンマレーシア（旧 OYL マニュファクチャリング）があり、部品や設備の共通化などのメリットがあることから、マレーシアに設立することを意思決定した。

**Q：化学事業の年間計画を下方修正した背景と、今後の事業戦略について。**

A：中国・欧州・米州市場を中心に、競合他社の価格攻勢がますます強まっている。今後は、ガス事業や半導体など好調分野での拡販や、用途開発を推進するとともに、原材料の調達コストダウンや生産プロセスの革新などを進め、収益性の向上を図っていく。

以 上